

丹波市青垣町佐治における空き家の改修を通じた地域の再生

関西大学 TAFS 佐治スタジオ研究員 ○出町 慎

丹波市企画部企画課 課長 余田一幸

関西大学 環境都市工学部 建築学科 教授 江川直樹

1. 活動方針・目的

本活動では丹波市青垣町佐治を舞台に地域内に多く存在する空き家を学生と住民が交流しながら改修し、再活用を行う「空き家リノベーション」を通じて、「関わり続けるという定住のカタチ」「21世紀の故郷づくり」をテーマに、関西大学と丹波市が連携協定を結び、地域住民、専門家と交流し、協働しながら地域の再生に取り組んでいる。

本活動の目的は、空き家の改修によって、学生や住民同士で交流し活動できる拠点施設や安価で長期滞在できるゲストハウス、まちに地域の再生に必要な「居場所」を作ることであり、改修過程の地域への公開、木材といった地域資源の利用、再評価、改修した空き家を利用したローカルコミュニティビジネスの創出といった地域環境のデザインを通じて地域再生を行うことである。

2. 活動内容

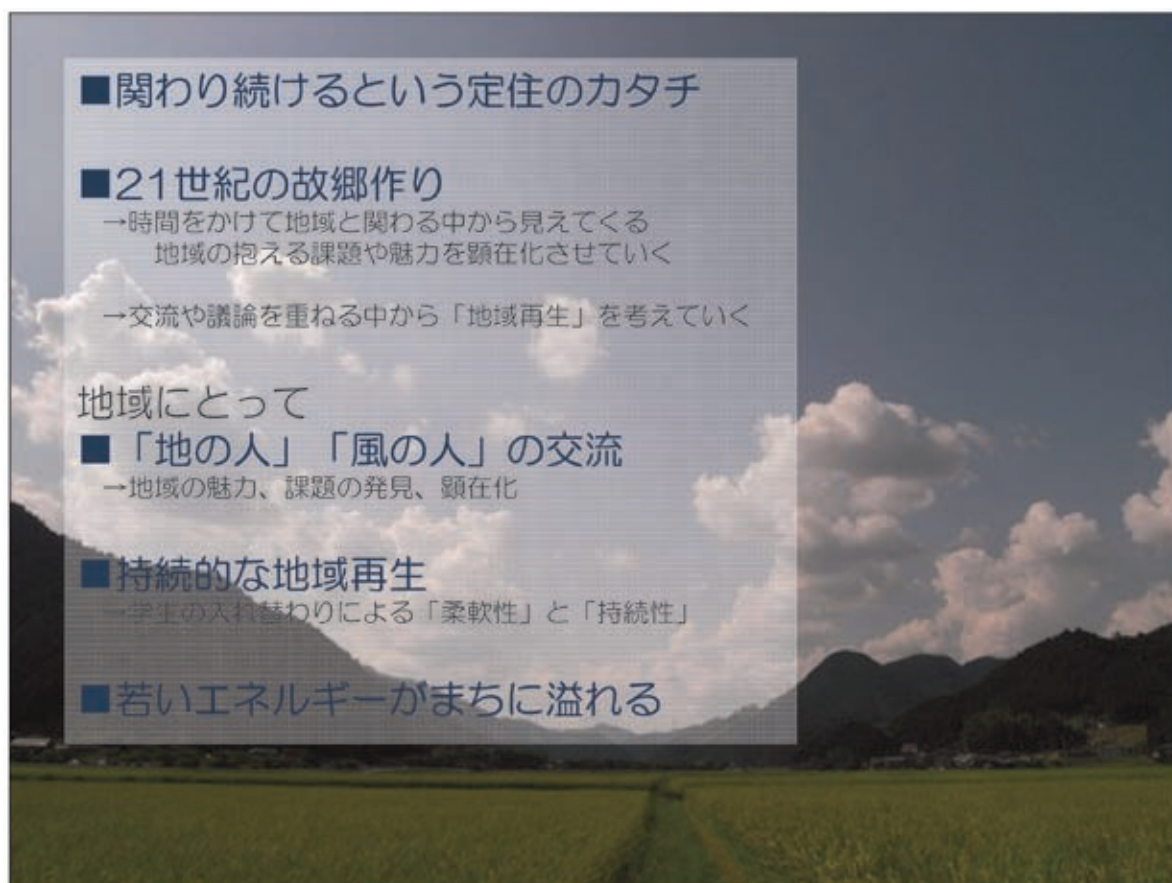
宿場町の面影残る街道に面する築80年の空き家を借りて、1階を学生と住民が交流し、活動する拠点となる「佐治スタジオ」として、2階を学生が継続的に長期間まちに滞在し地域を体で感じることができるよう容易に宿泊できる「ゲストハウス」として整備した。改修後は「まちの居場所」として、学生や子供たち、大人たちの集う場となっている。現在、2軒目の改修に取り掛かっており、地域と協働し、ローカルコミュニティビジネスの拠点として整備していく予定である。

3. 過去の失敗事例

改修が始まった当初は、地域への理解が浅く、地域に参加を呼びかけてもほとんど集まらなかった。しかし、まちでの長期滞在を重ね、積極的に就業体験や地域行事へ参加し、懇親会や討論会など地域交流していく中で、少しずつ改修作業やスタジオに訪れる住民の数が増え、我々の目的や意見に耳を傾け、議論ができるようになってきた。まずは時間をかけて持続的に関わり続け、地域を体で感じ、地域への理解を深め、地域との信頼関係を築くことが重要で、その作業を通じて見えてきた魅力や課題をカタチにし、共有することが地域の再生には必要だと感じた。

4. 今後の課題等

改修作業への参加に留まらず、地元教育機関との連携といった、これまで以上に地域に対して協働への関わり方に対する選択肢を用意することが必要と考える。さらに、ゲストハウスの運営といったローカルコミュニティビジネスの創出、地域が主体的となって地域再生の担い手となる地元建設関係職種で構成される「技術を持ったまちづくり会社」の設立など、より具体的に地域で働きながら、暮らしを愉しめる環境づくりを視野に入れて改修を進めていく。今後も空き家リノベーションを通じて、地域の暮らしを豊かにする社会資本の整備や美しい風景の骨格を作ること、地域の持続的な再生を行っていく。





丹波市青垣町佐治

- 美しい山々に囲まれた、かつての宿場町の面影を残す町並み
- 過疎高齢化、若年層の流出、空き家の増加風景の骨格の喪失の危機



小さく、簡単に

- 学生と住民が主体となって改修を進める
- 難しい工事ではなくて、誰でも真似できる技術・工法で作業を行う





地域に対して開いた状態を作る

- 文明社会の中で建築はブラックボックス化している
- 「建築」「ひと」「まち」の関係の断絶
- 地域への波及効果と交流による新しいコミュニティの構築

空き家リノベーション - 現況調査・解体・協議 -





- 生活がまちから離れてきている
- 学生だけでなく、地域の住民にとってもまちの中で過ごす場所が減ってきている

「まちの居場所」
まちで愉しく暮らすために

- 学生と住民、住民同士が交流し活動できる拠点をまちに作る

地域環境のデザイン

- 木材を「構造」「熱環境」「化粧」の面から評価し、利活用を促す
- 空き家の改修を通じて、地域環境のデザインを行う

空き家リノベーション - 改修作業 -



空き家リノベーション - 佐治スタジオ改修完了 -

